

14. 看護学部ニュースレターの発行

看護学部では、平成 23 年度から、看護学部学生生活通信『fure-fure』を年 2 回、保護者に向けて発行している。『fure-fure』という名称には、学生を応援する気持ちと、学生が誰かを応援できるようになる願いが込められている。学生一人ひとりの学びの過程を教員が見守り、個性を尊重した教育を大切に、人と人とのつながりを大切にする校風の中で、学生が力強く歩んでいる姿、エネルギー溢れる学生生活を伝えている。

令和 3 年度は 8 月に第 21 号、2 月に第 22 号を発行した。第 21 号では、学生部長の森下安子先生より、「新型コロナウイルス感染拡大防止のためのガイドライン（第 8 版）」に基づく学生支援体制について、久保田聡美先生・小原弘子先生より、看護・社会福祉・栄養の 3 学部の委員がそれぞれの専門家としての知恵を出し合い考案した Youtube による配信型体験セミナー「おうちで高知県立大学健康長寿センター体験セミナー」について紹介した。教務委員の瓜生浩子先生より、国際的学際的見地に立って看護を創造できる基本的な能力評価に向けたカリキュラム改革の取り組みについて、さらに、学生より、災害医療を学ぶ団体 SIT、いけいけサロンの活動を紹介した。各学年担当からは、遠隔と対面というハイブリッド型での授業となるなか、学生が互いに励まし合いながら、知識や技術の修得に取り組んでいる様子を伝えた。第 22 号では、教務部長の長戸和子先生より、コロナ禍における遠隔授業の推進に向けて、全学的に MOODLE の活用や、それに伴う教員研修、通信環境の整備が行われたことを紹介した。加えて、佐東美緒先生より、看護学部の遠隔授業推進プロジェクトが学生を対象に実施したアンケート結果では、遠隔授業のメリットとして、自分のペースで学習できる、何度も繰り返し聞くことができる、などがある一方で、デメリットとして、学んでいる実感がない、学生間で教え合うことができない、などがあり、この結果を受けて、双方型遠隔授業が取り入れられたことを紹介した。また、4 回生後期に行われた在宅看護実習を例にあげ、対象理解や看護実践力の向上に向けて、ロールプレイを通じた学内実習と、訪問看護師に同行し療養者への看護の実際に触れる学外実習を組み合わせるなど、学生の学びの支援について紹介した。各学年担当からは、ボランティア活動、実習、サークル活動、国家試験に向けた取り組みなどを紹介した。

学生生活通信『fure-fure』の最後のページには、連絡先（メールアドレス）を掲載し、保護者の皆様からご意見や感想をいただく窓口を設置している。これまで保護者より意見が寄せられたことはないが、今後も、看護学部 facebook など複数の媒体を通して発信し、伝えていきたい。